

第2回（仮称）屋代SICを活用した魅力あるまちづくり方針等策定委員会 議事録

1 日時：令和7年9月25日（木）午後2時から4時

2 場所：千曲市役所 301大会議室AB

3 出席者

委員：樋口委員（会長）、熊谷委員（副会長）、小林委員、石井委員、杉木委員、林委員、島田委員、酒井委員、田村委員

オブザーバー：長野県千曲建設事務所 足立所長

事務局：公民共創推進室、都市計画課、㈱オリエンタルコンサルタンツ

4 議事

（1）開会

（2）あいさつ

企画政策部栗原部長より開会の挨拶があった。

（3）委員紹介

熊谷副会長の紹介・挨拶があった。

（4）会議事項

1）（仮称）屋代SIC周辺地区の現状と団体・市民等の意見整理について

事務局から「資料3：（仮称）屋代SIC周辺地区まちづくり方針（骨子案）」を用いて、説明を行った。

【委員】市民ワークショップに参加させていただいた。30代の子育て世代が多く参加されており、特に「気候変動下（暑熱環境下）での居場所づくり」の重要性に関する意見が多くあった。市内において、子どもの遊び場は十分にあるが、夏の暑さを回避できる屋内の遊び場に関するニーズが多くあった。この点を補足させていただきたい。個人的に調べてみても、屋内遊び場は長野県の弱みであり、市民の意見に対応することで、弱点の解消にもリーチできると思われる。

【会長】屋内遊び場の設置場所は、公共文化ゾーン、商業ゾーンどちらであったか。

【委員】どちらかのゾーンに限定せず、どちらも子どもの遊び場に関する意見があった。

【会長】ヒアリング結果のところでは「降雪の少なさ」が魅力の一つに挙げられている。これに加え、「夏の暑さ」の中での居場所ニーズがあるように感じた。

【委員】ワークショップ参加者の意見は、SIC周辺地区で一日を楽しむ想定をされているように感じた。今回の検討エリアは、長野県立博物館に隣接しているため、長野県立歴史館の立場としても、市民意見の内容が実現できるとうれしい。また、特徴的な意見として、「あるものを生かす」とい

う観点がある。市全体で今あるものには文化的なものがあり、それらをつなげていく視点もあるように感じた。

【副会長】 肯定的な意見がまとめられていて、よく理解できた。印象的な意見は、SICエリアだけでなく、観光交流の機能を果たすために、周辺エリアや中心市街地との連携が重要であるという点である。現在、松本や長野に行くには更埴JCTがちょっと使いにくい部分がある。SICの整備により利便性が高くなると思う。

2) 千曲市全体における（仮称）屋代SIC周辺地区の役割と将来像について

事務局から「資料3：（仮称）屋代SIC周辺地区まちづくり方針（骨子案）」を用いて、説明を行った。

【委員】 特に内容についての意見はない。一つ言うと、景観の観点である。眺望景観などの景観の観点も加えていただきたい。

【事務局】 大変重要な視点である。次の議題となるが、（仮称）屋代SIC周辺地区の整備方針の中に、「緑と景観形成の方針」の項目がある。そこで、景観の観点を盛り込んでいる。このあとの議論で、ご確認いただきたい。

【委員】 夢のあるまちづくりという観点で、資料の内容について問題ないと思う。実現にあたっては付随した問題が生じてくると思うが、それはここで議論することではない。

【委員】 私も内容について問題ないと思う。個人的には、この後の議題である（仮称）屋代SIC周辺地区の整備方針に関する事項として、交通の問題に課題を感じている。

【会長】 役割6に関連しては、異常気象や災害時の対応は近年のまちづくりで求められることである。河川氾濫の際に、SIC周辺地区が市民の避難場所として機能していくことも重要である。

3) （仮称）屋代S I C周辺地区の整備方針について

事務局から「資料3：（仮称）屋代SIC周辺地区まちづくり方針（骨子案）」を用いて、説明を行った。

【委員】 交通対策に関して意見がある。今後予定されている一重山線の全線開通の必要性を打ち出してほしい。SICと道路整備はセットであるべきと考える。開発エリア内だけでなく、そこも重点的に考えてほしい。

【事務局】 SICに関連した一重山線の整備は必要だということで、市としても県に要望している。計画の策定にも盛り込んでいきたい。

【オブザーバー】 道路整備は、千曲市と連携して進めていきたい。資料の中で10月に交通量調査を実施するとある。開発後の交通量は、一重山線も含めて推計するのだろうか。あとで教えてほしい。また、防災の観点は重要である。防災拠点として、各地で「防災道の駅」が整備されている。SIC周辺地区のまちづくりでは、高速道路直結の大規模な施設が整備されるため、災害時に有効な場所になると思う。緑の観点ではネガティブな発言になるかもしれないが、道路の植栽を管理することが大変な時代となっている。草が生えてもすぐに枯れない状況もある。緑の管理については、アダプト制度の活用（市民の力）もメニューとしてある。こうした状況の認識を共有したい。

【事務局】交通量調査は、10/21、10/26の12時間で主な交差点交通量の計測を行う予定である。この交通量調査の結果を基に開発交通量を上乘せし、現道の工夫などの対策を検討していきたい。また、SICの関連した一重山線の整備は必要だということで、現在市道として整備している区間の先線整備を県に要望している。これについては本計画の策定にも盛り込んでいきたい。

【会長】道路の植栽は、市民と協力して管理していくことも重要と考える。

【委員】役割4に関して提案したい。「文化」のキーワードを入れても良いのではないかな。今あるものを生かすという観点で、文化を含めても良いのではないかな。また、脱炭素や環境配慮の観点も含めてはどうか。商業施設においても、目標として最初から入れても良いのではないかな。軽井沢の事例では、景観配慮型の太陽光パネルも出ている。市の象徴として、環境配慮のメッセージを打ち出せるのではないかな。

【会長】文化ということでは、重要伝統文化財もある。その点では「歴史」も重要なキーワードである。

【事務局】「文化」に関しては、例えば、市内でもかつての山城が連携して「のろし」を上げるイベントを行うなどの取組みが始められている。今回の計画でもキーワードとして、横串的な使い方を検討したい。脱炭素や環境配慮も重要な視点であり、これらは制約条件ではなく、当たり前の取組みになっていると認識する。環境に配慮することで集客を高めていくことができると考える。そのような観点を踏まえて計画に書き込んでいきたい。

【委員】環境配慮の取組としては、例えば産業ゾーンで、屋代駅から企業の通勤バスを運行することが考えられる。コンセプトのところに「環境」のキーワードを入れておけば、誘致企業側にそうした取組を求めることができる。

【委員】環境配慮について、県や市での支援体制やメニューはあるか。

【事務局】市として、シェアサイクルの導入に取り組んでいる。市で実施しているメニュー等があれば、調べてみたい。

【会長】環境配慮のきっかけづくりとして、そのような文言が計画に盛り込まれていると、その先の協議ができるようになる。事務局には是非検討していただきたい。

【副会長】眺望景観については、先ほども意見が出ていることから、関連する意見を述べたい。上信越自動車走っていると、白山トンネルを出て、ここがトンネル明けの場所となる。高速道路の利用者にとって印象的な場になる。小諸から上に上がると、正面は景観が開けない。急に開けるのはここであるため、この場所は非常に重要なシーンとなる。左は松本、右は長野になるが、高速道路からの視点場も重要である。

【会長】重要な意見である。SIC周辺地区では、運転している人が降りてみたくなる景観誘導が必要である。

【委員】交通対策の方針に関する質問である。屋代駅からSIC周辺までの区間を超えたバスのネットワークの計画があれば教えてほしい。例えば、稲荷山の重伝建地区には駐車場がない。SIC周辺地区と連携するにしても、現状では「楽しめる場所」として難しい。また、緑と景観に関しては、SIC周辺地区が古くから「屋代田んぼ」という重要な景観の場所であることを大切にほしい。一方、周辺の山々ではクマの出現の影響で、入山を閉鎖していることがあった。獣害対策により、緑・景観を壊してしまうのは本末転倒である。このため、獣害対策も重要と考える。さらに道路整

備にあたっては、現在、教育委員会の遺跡発掘調査が行われている。発掘で出てきた史跡物の記録も景観を残していくことに通ずると思う。また、教育にも関連すると思う。

【事務局】公共交通に関し、現時点では路線を拡大する検討をしていないが、SIC周辺地区のまちづくりが進む中で、公共交通ネットワークのあり方を検討していきたい。また、獣害対策については、市民への早期の情報提供に努めたい。

【会長】人やクマの両方にとって、良い環境ができると良い。

【委員】林委員のコメントにあったが、現在の道路状況のままでは混雑が発生してしまうのではないかと心配している。現状では、午前8時前後に渋滞している状態である。一重山線の整備は都市計画どおりに、18号まで整備を進めてほしい。

【会長】SIC周辺地区のまちづくりでは、それが出来上がることを見越して、色々なことを検討して進めることが重要である。例えば、北陸新幹線開通に対応できた自治体と、できていない自治体との間では、新幹線開通後の効果に差がある。開発に併せた準備を同時並行で進めていくことが重要である。

【委員】東部地域の立場から意見を述べる。今回の骨子案は内容が充実しており、このとおりに開発できれば素晴らしいと思う。一方、ICが複数になるとで、用途のすみ分けが必要である。SIC周辺の開発に関する今回の案は、狭い土地の範囲に多くの機能が予定されており、絞り込むことが必要かもしれない。また、SICの完成後は、車で乗り入れることを想定しているが、公共交通の利用を見据えると、しなの鉄道との連携も重要な視点として盛り込むべきと考える。

【会長】公共交通利用者の視点も重要であるため、事務局には今の意見をご配慮いただきたい。また、開発区域全体としては大きな区域であるように思う。

4) まちづくりの効果と推進体制について

事務局から「資料3：（仮称）屋代SIC周辺地区まちづくり方針（骨子案）」を用いて、説明を行った。

【会長】2030年までは、あと5年しかなく、実はそれほど時間は残っていないと見ることもできる。SICの認可はされているので、そのことを前提に、検討を進めていければと思う。

【副会長】資料に記載があるマネジメントの視点は重要である。特に観光面のマネジメントでは、DMOが重要な役割を果たす。千曲市はDMOに先進的に取り組まれていたので、その実績を生かしながら、戸倉上山田温泉だけでなく、東側地区の観光マネジメントにも活躍して頂きたい。

【会長】戸倉上山田との連携はいかがか。

【委員】戸倉上山田のまちづくりでは、先進的な考えを持っているが、SICと関連したものではない。SIC周辺地区との連携でどのような効果が見いだせるのかがイメージしにくい。ただし、SICの整備は、市全体として明るい計画である。SICの整備効果を観光につなげられると良い。

【会長】来街者が千曲に来て、楽しめるようになれると良い。

【委員】戸倉上山田は泊まる場所として魅力的である。一方、千曲市の北側の観光は、戸倉上山田と比べて弱い部分がある。SICで新たに人を呼び込み、戸倉上山田と連携していくことが重要である

と思う。最初に話が出た子どもの屋内遊び場は、県全体としても弱いところである。この部分に対応することができれば、昼の時間帯は屋代で過ごし、夜は戸倉上山田温泉に泊まるなどの連携もできると思う。

【会長】各地区の特性を生かしつつ、エリア全体を使っていただくことは大変重要な視点である。また、推進体制の図中にも、市が各主体をコーディネートする中心にあり、市の覚悟がうかがえて素晴らしい

5) 商業ゾーン・交通拠点ゾーンの整備手法について

事務局から「資料4：商業ゾーン・交通拠点ゾーンの整備手法の考え方」について、説明を行った。

【会長】商業ゾーンと交通拠点ゾーンは、他のゾーンに先行して進めていくことでよいか。

【事務局】ご指摘のとおりである。

【会長】現状では農業系の土地利用規制がかかっていることから、商業ゾーンと交通拠点ゾーン以外のゾーンの開発が、その後になったとしても乱開発が起こるわけではないという認識でよいか。

【事務局】ご指摘のとおりである。

【副会長】景観についてであるが、商業ゾーンでは施設壁面の広告物が心配である。屋外広告物条例で規制がかかっていると思う。高速道路から一定の範囲については規制があるのではないか。また、質問だが「建築物等の形態又は意匠」の「等」は、工作物を含んでいるのか。

【事務局】屋外広告物については、千曲市の場合、県の条例に準じている。高速道路沿道は禁止地域ということで、10㎡未満の広告物の設置は可能だが、10㎡を超えるものは設置できない。また、建築物等の「等」は工作物を含んでいる。

【委員】市民ワークショップの意見に、ワイナリーの意見があった。市ではワイナリー特区を得ていると聞いた。商業施設の中にワイナリーができると良い。ワイナリー関連で活動している人に賛同いただければ、実現に向かって進んでいけると思う。

【事務局】誘致が決まっているわけではないが、ご指摘を踏まえ、開発事業者と情報交換を進めていきたい。

【会長】SIC周辺地区でおいしいワインが話題となり、市内外の来街者で賑わいが生まれると良い。

6) 全体を通じた意見交換

【会長】一通り議事は済んだが、他に意見があればぜひお願いしたい。

【委員】特になし。

(6) その他

特に意見なし

(7) 閉会

【事務局】 次回の委員会は、12月の開催を予定している。日程が決まり次第、委員各位に連絡する。

以上